

平成 16 年度各種委員会報告

1. 教育委員会

委員長 幕 内 雅 敏

1. 卒後教育セミナー（資料 1）

1) 第 65 回は「癌治療ガイドライン」のテーマで昨春第 104 回定期学術集会に並行して、松田暉前会長のお世話で大阪市にて開催した（参加者 1,600 名）。

2) 第 66 回は「内視鏡外科」のテーマで昨秋日本臨床外科学会の斎藤和好前会長にお世話いただき盛岡市にて開催した（参加者 1,164 名）。

3) 平成 17 年度の実施計画としては、資料 1 の如く第 67 回を 5 月 13 日に二村雄次会長のお世話で開催し、今秋には第 68 回を日本臨床外科学会の平井勝也会長にお世話いただき開催予定である。

（資料 1）

第 67 回卒後教育セミナー（平成 17 年度春季）

日 時：平成 17 年 5 月 13 日（金）13:30～16:30

（第 105 回日本外科学会定期学術集会三日目）

場 所：名古屋国際会議場センチュリーホール

世話人：二村 雄次（名古屋大学器官調節外科）

企 画：中村 達（浜松医科大学第 2 外科）

テーマ：安全管理

1. リスクマネジメント、とくに初動

座 長：兼松 隆之（長崎大学移植・消化器外科）

講 師：加藤 治文（東京医科大学外科）

2. 開業医療機関におけるリスクマネジメント

座 長：近藤 哲（北海道大学腫瘍外科）

講 師：吉原 忠男（埼玉県医師会長）

3. 手術室の安全管理について

座 長：黒田 嘉和（神戸大学消化器外科）

講 師：安達 秀雄（自治医科大学大宮医療センター心臓血管外科）

4. 薬剤の安全管理について

座 長：谷川 允彦（大阪医科大学一般消化器外科）

講 師：谷川原祐介（慶應義塾大学薬剤部）

5. 感染対策

座 長：中尾 昭公（名古屋大学病態制御外科）

講 師：武澤 純（名古屋大学救急集中治療部）

平成 14 年度からの本学会外科専門医制度の実施に伴い、教育委員会の役割も一層重要となってきた。したがって卒後教育セミナーに関しても各関連学会との関係を密にし、見直して行くことが必要となる。特にセミナーの主題、運営方法などそのあり方について、より広い観点より検討していく事が要求され、現在の実施方法などについても、更に審議を重ねて行かなければならない。

なお、本学会外科専門医制度規則施行規定によって指導医の選定の新規申請（春季は定期学術集会に参加しなかった場合のみ）と更新申請、外科専門医の移行認定申請と更新申請をするため、本学会卒後教育セミナー参加証をもって定期学術集会の参加に換えることができる点などの周知方をお願いしたい。

2. フィルムライブラリー（資料 2. 3）

現在の収蔵数はフィルム 97 本、ビデオ 153 本であるが、本会定期学術集会における「映像による私の手術手技」のビデオ 5 本が加わるのでビデオ 158 本となる予定である。

フィルムライブラリーの利用状況は資料 2 に示す。

平成 6 年度よりタイトルを「映像による私の手術手技」と改め、利用価値等を考慮し 16mm フィルムからビデオに変更し、担当者に 100 万円の補助を行っていたが、今年度からは 50 万円の補助として DVD で提出いただくこととした。また、昭和 59 年 5 月より業務を株式会社協和企画に委託していたが、今後は DVD で頒布し、本会に対応することによって低価格で利用できることとした。なお、ホームページでの公開も検討中である。

平成 16 年度の「映像による私の手術手技」は資料 3 の様に決定している。

映画担当者の選定は教育委員会が、会長と相談の上決定している。

(資料 2)

平成 15 年度フィルムライブラリー利用状況				
種 別	貸 出		* 頒 布	
フィルム	0 件	0 本		
ビデオ	11 件	14 本	16 件	80 本
合 計	11 件	14 本	16 件	80 本

* 昭和 59 年度以降収蔵分のビデオのみ

(資料 3)

(映像による私の手術手技)

(平成 16 年度)

Mitral valve repair for Barlow’s syndrome
Cleveland Clinic Foundation, USA Delos M Cosgrove

Pylorus preserving pancreaticoduodenectomy-origin, indications, surgical technique, and outcomes
Virginia Mason Medical Center, USA William L Traverso

Right trisectionectomy and principal portal vein resection for hilar cholangiocarcinoma
Medical Faculty of the Humboldt University, Germany Peter J Neuhaus

Hanging maneuver-indication, technique, and results
University of paris VII Hospital Beaujon, France Jacques Belghiti

Dual liver grafts in living-donor adult liver transplantation
Asan Medical Center, Korea Sung-Gyu Lee

3. 生涯教育セミナーについて

平成 16 年度は「鏡視下手術」のテーマで開催した。全国 7 地区で合計約 800 名が受講され順調に実施されている。

平成 17 年度のテーマは「肛門疾患の治療」である。

4. 市民講座について

市民講座委員会が独立していたが今年度から教育委員会で担当することとなった。

1) 第 26 回市民講座は大阪市において、松田暉前会長のお世話で「最先端の外科を知ろう」のテーマのもとに開催され、約 782 名の聴衆を集めて盛況のうちに終了した。

2) 第 27 回は盛岡市において、日本臨床外科学会の斎藤和好前会長のお世話で「安心して癌の治療を受けるために」のテーマのもとに開催され、約 270 名の聴衆を集めて盛況のうちに終了した。

3) 第 28 回は「そのときあなたは どうする？手術といわれたら」のテーマのもと 5 月 13 日に二村雄次会長のお世話で開催する。

4) 第 29 回は今秋、東京都において、平井勝也日本臨床外科学会総会会長のお世話で開催の予定である。

2. 邦文誌編集委員会

委員長 田 林 暁 一

邦文誌（日本外科学会雑誌）について

本誌の充実をめざして邦文誌編集委員会を 2 カ月に 1 度開催し、第 106 巻 5 号および臨時増刊号（抄録集）を会員に配付した。

来年、第 107 巻より隔月発刊として、学術集会プログラム号及び抄録号、学術集会特集号を含めて年 9 巻の発刊とすることとした。

邦文誌の内容

1. 会員より原稿を募る

症例報告、研究速報、総説、随筆、提言、学会出席者の感想文、私の療養体験、会員の近況報告、私の作品（写真、絵、短歌、俳句など）

2. 原稿依頼

a. 特集…編集委員により企画する依頼原稿

（第 98 巻第 8 号より特集のテーマの立案に対し本委員会で審議の上、担当委員制度を設定した）

b. 外科学会会員のための企画…会員に役立つような内容を企画する依頼原稿

c. Editorial…第 106 巻 1 号より編集委員が執筆

d. 手術の tips and pitfalls…第 106 巻 1 号より図を中心とした依頼原稿

e. 学会報告

f. 本学会の特別講演者、教育講演者などに依頼

g. 卒後教育セミナーの講演要旨（第 48 回卒後教育セミナーより掲載）

3. 掲載料金

a. 総説、症例報告 5 万円

b. 研究速報 3 万円

c. 随筆、提言、学会出席者の感想文、私の療養体験、会員の近況報告、私の作品（写真、絵、短歌、

俳句など) 無料。枚数超過の場合は1万円

d. 学会・研究会案内 1/3 頁 2 万円

4. 依頼原稿執筆料

従来は会員が無料、非会員が5万円とされていたが、今年度から会員には5万円として非会員は10万円とすることとした。(特集の前文や Editorial を執筆する編集委員は無料)

なお、本誌の Quality を向上させるため英文抄録の Check を第99巻第1号より Ms. シンシア氏に1編2,250円にて依頼している。

3. 英文誌編集委員会

委員長 門 田 守 人

英文誌 (Surgery Today) について

平成16年度中に623編の投稿原稿があった。同年発行の第34巻には238編が掲載され、平成16年度の採用率は43.9%、通算採用率は59.1%であった。

平成12年度より、投稿から掲載までの期間を短縮するため原著論文については査読期間を4週間から2週間に変更した。なお、昨年度から統計に疑義がある論文については統計学者に査読を依頼している。編集幹事会にて審議する原稿については、査読者及び英文誌編集委員長が掲載可能と判断した時点で編集幹事会にて審議することとしている。昨年度より投稿から採否決定までの期間が original は平均5ヶ月へ original 以外は平均7ヶ月へ、また掲載までの期間は平均13ヶ月となった。

平成15年5月23日より開始した本会会員のみが閲覧出来る電子ジャーナル、本会定期学術集会の来日講演者および編集委員に review の執筆依頼などの努力によりインパクトファクターも徐々に上昇し、最新のものでは0.528となっている。

本会会員からの original manuscript に対する acceptable secondary publication の委員会としての見解の問い合わせがあり、本会編集委員会にて慎重に審議を行った。その結果、国際的な規約に則り、duplicate publication を認めることとした。詳細は日本外科学会雑誌第105巻第2号を参考していただきたい。

なお、査読者の先生方の負担の軽減や査読結果の迅速化を図るため電子査読システム (Manuscript Central) の使用が正式に理事会で承認された事に伴い、早急に使用できるよう現在開発を行っている。また、歴史ある機関誌 Surgery Today を全世界に向けて広く衆知させるために、The Japanese Journal of Surgery, Volume 1-21 および Surgery Today, Volume 22-27 までの電子化を無料で行えるようシュプリンガーと交渉

掲載原稿種別表

年次	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	00	01	02	03	04
巻数	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
投稿数	119	102	142	164	131	151	179	197	208	275	268	322	339	419	443	429	438	424	509	607	667	623
掲載数	95	89	83	76	87	119	116	119	120	107	206	222	211	212	245	281	271	239	247	243	217	238
採用率(%)	79.8	87.3	58.5	46.3	66.4	78.8	64.8	60.4	57.7	38.9	76.9	68.9	62.2	50.5	55.3	65.5	61.8	56.4	48.5	40.2	32.5	43.9
Editorial	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	9	1	0	0	0	0	0
Review	5	4	12	4	6	5	7	6	1	7	1	5	5	3	2	1	1	4	2	3	0	8
Original	75	77	50	44	47	71	59	67	67	59	107	106	101	82	120	102	100	97	86	88	76	102
Case Report	0	0	12	19	25	33	44	38	47	37	89	93	88	99	97	152	145	129	142	146	134	113
Short Communication	10	5	7	9	6	6	2	7	5	3	7	8	5	9	9	6	9	2	6	2	2	2
How to do it	3	3	1	0	3	4	1	1	0	1	2	10	12	7	10	11	14	7	11	4	2	13
その他	2	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	1	0	0	0	0
Impact Factor								0.21	0.223	0.188	0.163	0.118	0.171	0.209	0.233	0.303	0.379	0.356	0.480	0.501	0.528	

投稿数内訳																					
Original												145	171	149	166	196	222	174			
その他												284	267	275	343	411	445	449			

中である。

本年度研究助成委員会が廃止され、本委員会が研究奨励賞の授賞者選定を引き継ぎ行うこととなった。そして本年度授賞者を下記の如く決定させていただいた。

最後に投稿原稿数の増加とともに編集委員並びに評議員の負担も年々大きくなっており、この場を借りて厚くお礼申し上げたい。

外国投稿内訳表

年次	98	99	00	01	02	03	04
巻数	28	29	30	31	32	33	34
外国の投稿内訳							
アイルランド	0	0	1	1	0	2	5
アメリカ合衆国	5	4	9	5	7	11	9
アルメニア	0	0	0	1	0	0	0
イギリス	2	0	1	9	9	7	9
イスラエル	0	1	0	2	1	4	1
イタリア	7	5	10	17	15	31	19
インド	6	19	17	23	21	18	13
ウルグアイ	0	1	0	0	0	0	0
エジプト	2	3	0	0	3	4	1
オランダ	0	0	1	2	0	0	1
ガーナ	0	1	0	0	0	0	0
韓国	1	2	6	8	7	9	8
ギンジャ	0	2	2	10	21	22	29
サウジアラビア	0	0	0	2	6	3	0
シンガポール	0	0	0	1	0	0	4
スイス	0	0	1	0	2	1	1
スペイン	0	1	0	0	2	2	7
台湾	2	3	5	9	8	27	22
中国	1	0	1	5	4	5	5
ドイツ	1	4	7	7	9	11	11
トルコ	36	50	43	92	133	169	129
ナイジェリア	0	3	1	0	0	0	0
ネパール	0	0	0	1	0	1	1
ハンガリー	0	1	0	1	1	1	2
フィジー	0	0	0	1	0	0	0
ブラジル	0	1	2	1	3	2	1
フランス	0	2	0	1	3	1	5
ブルガリア	4	4	0	0	0	1	1
マレーシア	0	0	0	2	0	0	0
メキシコ	0	0	0	1	0	2	2
ヨルダン	0	0	1	0	2	1	1
ルーマニア	1	2	0	0	0	0	2
ロシア	0	0	1	0	0	0	0
オーストラリア	0	0	0	0	2	2	1
オーストリア	0	0	0	0	1	0	0
クロアチア	0	0	0	0	1	0	2
チェコ共和国	0	0	0	0	2	0	1
イラン	0	0	0	0	1	0	3
ポーランド	0	0	0	0	2	4	3
カタール	0	0	0	0	1	0	0
ジャマイカ	0	0	0	0	1	1	0
スロベニア	0	0	0	0	1	0	0
カナダ	0	0	0	0	0	1	0
モルドバ	0	0	0	0	0	1	0
パキスタン	0	0	0	0	0	2	0
セルビア・モンテネグロ	0	0	0	0	0	1	1
南アフリカ	0	0	0	0	0	1	0
スリランカ	0	0	0	0	0	1	0
タイ	0	0	0	0	0	2	1
ユーゴスラビア	0	0	0	0	0	1	0
合 計	68	109	109	202	269	352	301

年次	03	04
投稿数	667	623
脳神経	0	0
内分泌(含乳腺)	19	19
心	16	16
肺	14	26
血管	16	35
消化器	116	94
移植	4	3
小児外科	7	13
一般その他	25	32
掲載数	217	238

第 11 回研究奨励賞授賞者 6 名

小田 和重 (名古屋大学大学院医学系研究科病態制御外科学)

Perioperative Prostaglandin E1 Treatment for the Prevention of Postoperative Complications After Esophagectomy: A Randomized Clinical Trial 34: 662—667

中越 享 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科腫瘍外科)

Survival and Recurrence After a Sphincter-Saving Resection and Abdominoperineal Resection for Adenocarcinoma of the Rectum At or Below the Peritoneal Reflection: A Multivariate Analysis 34: 32—39

長屋 昌樹 (聖マリアンナ医科大学救急医学)

Ductular Cell Proliferation in Islet Cell Neogenesis Induced by Incomplete Ligation of the Pancreatic Duct in Dog 34: 586—592

宮本 伸二 (大分大学医学部心臓血管外科)

Denervation and Reinnervation of the Heart After Aortic Surgery, Estimated by ¹²³I-Metaiodobenzylguanidine Scintigraphy 34: 226—230

守尾 篤 (順天堂大学胸部外科)

Enhanced Induction of Apoptosis in Lung Adenocarcinoma After Preoperative Chemotherapy with Tegafur and Uracil (UFT) 34: 822—827

小池 薫 (東北大学大学院医学系研究科救急医学分野)

Correlation of Glomerular Permeability, Endothelial Injury, and Postoperative Multiple Organ Dysfunction 34: 811—816

4. 国際委員会

委員長 兼 松 隆 之

① 日本外科学会と密接な関連がある国際学会ならびに主要国の外科系学会の最新情報を逐次整理して、日外会誌上に随時掲載している。

② 外国人名誉会員の推薦について、第 1 号議案で報告のあった 1 名を推薦した。

③ ドイツ外科学会出席旅費給付について

ドイツ外科学会と本会とで 3 名の若手外科医の交換をする交流は、迎える側が旅費を用意し本会では一人 50 万円を給付している。本会からドイツ外科学会へ参加する給付者を日外会誌の公告により応募のあった 5 名の中から、以下の 3 名を推薦した。

第 122 回ドイツ外科学会出席旅費給付者

石橋 洋則 (静岡県立総合病院)

武野 慎祐 (大分大学腫瘍病態制御講座)

常塚 宣男 (石川県立中央病院外科)

④ American College of Surgeons (ACS) との若手外科医の学術交流制度について

日本外科学会ならびに ACS Japan Chapter と ACS とでそれぞれの総会に日本側、ACS 側から推薦のあった若手外科医を 1 名ずつ招聘し、学術発表の機会を与えることが一昨年より始まった。今回の学術集会において ACS 推薦の外科医による学術発表も予定されている。今年度 (平成 17 年 10 月) 開催予定の ACS に本会からの推薦者 1 名は日外会誌にて公募し、以下の 1 名を推薦した。なお、招聘外科医の旅

費等の経費については推薦した学会側の負担となる。

第 91 回 American College of Surgeons 出席旅費給付者

田中 文明（九州大学生体防御医学研究所）

⑤ Society of University Surgeons (SUS) との交流について

従来から交流を行ってきた SUS について、今後は国際委員会が交流の窓口となることとした。

⑥ デベロピングカントリーの外科医との交流（トラベルグラント）について

第 93 回総会より実施されたこの制度は、第 94 回総会の際から本会の正式事業として、10 名程度の旅費補助を行っていたが、最近では応募も多くなったため 30 名分の旅費を補助することとした。本年度も、選考に際しては会長のサポートに徹した。

選考時に考慮すべき要件（覚書き）

1) 地域性

2) 研究発表の分野

3) 複数回の応募（当選している場合と、応募するも落選している場合が考えられ、前者は選考から外し、後者については選考の対象とし、できれば選出する）

⑦ I.F.S.C. (International Federation of Surgical Colleges) に関しては、昭和 55 年度より再加入し交流を開始しているが、今村正之先生が対処している。その事業としては各国外科学会の情報の収集、分析、WHO の諮問に対する提案、発展途上国外科学会に対する助言と外科医の短期間派遣などの援助を行っている。

⑧ 研修証明書 (Certification) 発行について

平成 4 年度より、本会の認定施設において研修を行った海外からの留学医師に対して標記を授与している。規定は下記の通りである。

海外からの留学医師に対する研修証明書 (Certification) 規定

1) 本証明書は、海外からの留学医師が、外科学会の認定する施設において一定期間の研修を終了したことを証明するものである。

2) 外科学会国際委員会は当該施設より提出された一定書類に従い本証明書の発行を行う。

3) 研修期間は 6 カ月以上とする。

4) 本証明書には、外科指導責任者の署名および外科学会会長の署名を必要とする。

5) 本証明書発行に必要な費用 (5,000 円) は被証明者負担とする。